

SGH 通信

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221/FAX 088-844-4823

H28. No.1 2 URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

～1 年生の取組～

2016.11.11

第19回グローバル探究Ⅰ 地域創生モデル案作成



11月2日(水)、前回の高知県のSWOT分析で見えてきた高知県の現状をもとに、地域創生モデル案のテーマ設定を行い、構想を練るとともにグループとしての探究活動の方向性を決めていきました。

◆生徒は一年生なので、まだこのような探究活動に慣れてない印象もありましたが、実際には積極的に取り組むことができていました。授業の感想としては少し実践的な内容だったため教師や学生TAのサポートが重要だと感じました。はっきりとした答えのある活動ではないので、積極的に意見を出してよりよいものを作っていって下さい。

高知大学 人文学部 3 回生 山本和典さん

◆元気な生徒が多く、とても明るいクラスでした。課題に一生懸命取り組む中でわからないことがあれば、もっとTAに頼ってください。色々お話をできてよかったです。高校生という時間は一生に一度しかなく、今を思いっきり楽しんでもらいたいです。将来のことを視野に入れつつ、自分と向き合う時間も大切にして下さい。

高知大学 理学部 4 回生 城戸 勇人さん

第20回グローバル探究Ⅰ 地域創生モデル案のクラス構想発表



11月9日(水)、各グループが探究の方向性をクラスで、地域創生モデル案の構想発表が行われました。担当教員、学生TAさんの前で発表し、助言をもらって内容の改善を図りました。

◆先生に言われたこと、大学生に言われたことをただ盲目的に取り組むだけでは次に進めなくなります。なぜしているのか、といった意味があるのかを考え、自分たちの研究にし、そして楽しんで取り組んでほしいです。

高知工科大学 マネジメント学部 1 回生 大坂 昂弘さん

◆一生懸命調べていて、熱心な生徒さんだと思いました。一つ言うとしたら、しっかりとした発表をしてほしいというところですか。よく調べているのにもったいないと感じました。構成もしっかりしていて、聞いていても面白いと思う内容ばかりですが、仮説とパンチライン(本当にいいところ)をはっきりさせると、もっと良くなると思います。これからも楽しみながら頑張ってください。

高知工科大学 マネジメント学部 3 回生 友利 肇伸さん

～2年生の取組～

第17回グローバル探究Ⅱ 地域創生モデルのブラッシュアップ



11月4日（金）の授業では前回に引き続き、研究論文の作成を行いました。グループで論文を作成しているため、グループ内で役割分担を決めるなどして精力的に活動していました。





平成28年度高知県高等学校国際教育生徒研究発表会

平成28年11月1日（火）伊野商業高等学校にて高知県高等学校国際教育生徒研究発表大会が行われました。この秋の海外リサーチで、香港・台湾を訪問した2つのグループが、それぞれの課題探究に関する内容の発表を行いました。以下、発表要旨を記載します。

意見発表の部

 <p>優秀賞 2年 植田 れいあ (グローバル探究Ⅱ) 「食に求めるもの」</p> <p>昨夏と今夏の2度のオーストラリア訪問を通じて、同世代の食生活、食習慣を体験し、日本の食習慣の素晴らしさをあらためて認識した。企業は食の安全性を大事に考え、生産、販売する努力をしているが、実際に食品を口にするのは私たち。私たちの将来の体を作るものは、私たちが今食べているもの。食品を選ぶ時、価格ばかりを気にするのではなく、自分が買おうとする食品がどこで、どのように、誰によって作られたのかを考えて購入するとともに、健康な体をつくるために何を食べるべきなのか、私たちそれぞれが学習することが重要である。</p>	 <p>奨励賞 2年 ペリン・ルセル (フランスからの留学生) 「フランスと日本の学校の違い」</p> <p>日本に来てから2か月が経ち、高校生活を楽しんでいる。フランスと日本では、似ているところもあるが、違うこともたくさんある。フランスでは自由が大切ですが、日本では規則がたくさんある。この違いは環境の産物。日本の社会はグループを大事にし、西洋の社会は個人を大事にする。フランスではみんながしたいことをするがその責任は自分。日本人はグループのことを考えて、きちんと行動しようとする。どちらがいいということではなく、違いがあることを知ることが大事。</p>
---	---

グループ発表の部

 <p>2年 台湾リサーチ (グローバル探究Ⅱ) 「クセになる台湾」</p> <p>台湾にはクセになるポイントがたくさんあった。一番は、台湾人の人柄だ。たくさんのやさしさや日本人以上のおもてなし精神、笑顔と積極性などだ。笑顔は、自然とまた台湾に来たいと思わせてくれた。台湾人の積極性や笑顔がクセになったように、クセになる高知、クセになる日本を作って、一人一人がクセになる日本人になることが重要。これは決して台湾人と同じようになるというわけではなく、日本人特有の奥ゆかしさや人を思いやる気持ちを持ち合わせたうえで台湾人のような笑顔や積極性を身につけ、外国人がクセになる日本人になること。今回交流した台湾人を含め、海外の人たちとの交流の輪を広げながら、高知や日本を元気にする、クセになる方法を考えていきたい。</p>	 <p>2年 香港リサーチ (グローバル探究Ⅱ) 「高知まるごとブランド化」</p> <p>リサーチ活動を通して、私たちが考えた高知県の強みは、やはり「食」である。海外に向けて高知の「食」の素晴らしさを伝えていくことが、高知の最大の地域創生になるのではないかと。そこで、重要視したいのは、味や安全性などの「品質」、知名度などの「ブランド力」、相手の需要に応える「生産力」の3つである。</p> <p>「ブランド」＝「信頼」。長い年月をかけ、少しずつ「KOCHI」の評価を高め、「ブランド」として浸透させていく必要がある。「MADE IN KOCHI」のブランド化が上手いけば、高知県は世界へ羽ばたき、地域創生になるのではないかと。</p>
--	--